

富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

改善提案シート中間とりまとめ
【第2回実施分】

1 高齢者

- ①【**見つける**】
居場所のない高齢者を見つけることが難しい
- ②【**来てもらう**】
高齢者の居場所が少ない・足りない
孤立している人たち側が、自分の居場所を見つけることは難しい
- ③【**出向く**】
居場所をつくっても、真に孤立した人たちは救えない
高齢者のサポート体制が薄い・若い人が少ない

2 子ども・子育て

- ①【**家での親の居場所づくり**】
子育て中の親は、家の中でも休まらない
- ②【**地域で子育て**】
地域で子育てを応援する雰囲気が醸成されていない
- ③【**親子で出かける居場所づくり**】
幼い子どもがいる親が、安心して出かけられる場所が少ない
親子がリラックスできる居場所が少ない

3 障がい者とその家族

- ①【**知る・知らせる**】
私たちは「障がい」についてよく知らない
”居場所”に関する情報が行き届いていない
- ②【**壁をなくす**】
障がいに関する「壁」がある

4 若者・单身

- ①【**交流の減少**】
特に若い世代で人との直接の交流が減っている
若者同士の交流が減っていて、集まれる場所も少ない

5 全般

- ①【**みんなの交流の場**】
生活が見えない、他の人と話をする機会がない
世代間交流の機会が少ない
高齢者や单身者、その他どんな人でも集まれる場所をつくりたい。
- ②【**“地域活動”**】
どんな活動が地域で行われているのか知らない(知られていない)
「地域活動への参加」に義務感・やらされ感がある

1 高齢者

■ キーワード

- 孤立
- こちらから出向く
- 若い世代・次の世代への循環性

課題1		<p>【見つける】 <u>居場所のない高齢者を見つけることが難しい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 居場所づくりをする前に、誰に居場所がないか、どれほどの人たちが居場所を必要としているのかを把握することが必要ではないか。 ☞ 声を上げられる人だけではない。「孤立」している人は、話し相手もなく、ひっそりと声を上げずに過ごしている。
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域行事に参加し、高齢者を含め色々な人と触れ合い、地域の人を知る。 ● 近所の家々の様子を意識的に見る。(雑草が生い茂っていないかなど)
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人が、互いに気楽に声掛けができるようにして行く。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 孤立している人の情報管理
	その他	

課題2		<p>【来てもらう】 <u>高齢者の居場所が少ない・足りない</u> <u>孤立している人たち側が、自分の居場所を見つけることは難しい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 地域の人たちが顔の見える関係性を築き、孤立している人・閉じこもっている人をいち早く察知・把握することは大切だが、それは「サポートする側」からの視点での話だ。 ☞ 孤立しそうになっている人自身が、自分の居場所を探してもらい、それをサポートすることで、もっと寄り添ったサポートができる。
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 居場所がない(または少ない)高齢者本人が、楽しい場所を見つける。 ● 趣味趣向が合う仲間同士で、健康増進もかねて、楽しく充実した時間を持つ(グラウンドゴルフ等)。 ● (本人が)会話ができる時間・場所をつくる。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話の時間・機会を増やす。 ● 「おしゃべり×〇〇〇〇」などのイベントを企画する。 ● 懇親会、ゲームを通じて交流を増やす。 ● 店を集会所にして話を聞く。 ● (グラウンドゴルフ用の)グラウンドのコンディション、芝の手入れ、雑草の維持管理をする。

	行政	<ul style="list-style-type: none"> ●会場を提供する、整備する。 ●(グラウンドゴルフ用の)グラウンドのコンディション、芝の手入れ、雑草の維持管理をする。
	その他	

課題3	<p>【出向く】 <u>居場所をつくっても、真に孤立した人たちは救えない</u> <u>高齢者のサポート体制が薄い・若い人が少ない</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 誰かと顔を合わせたり、話をしているときに、楽しく、居心地の良いところ＝居場所になる。 ⇒ しかし、真に孤立している人は、外に“居場所”をつくっても、そこに集まってもらうこと自体が難しい。 「来てもらう」だけでなく「出向く」サポートが必要だ。 ⇒ “居場所づくり”をはじめとした地域づくりに、若い世代にも参加してもらい、若いうちから地域のサポートをする慣習を根付かせたい。そして、さらに次の世代に引き継がれる循環性が生まれてほしい。 ⇒ 「見つけるサポート」、「来てもらうサポート」、「出向くサポート」のいずれにしても、地域の人同士の壁をなくしていく。 								
	改善提案	<table border="1"> <tr> <td>個人</td> <td>●相手への気配り、お互いを思いやる気持ちを持つ。</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●話し相手になるために、ひとり暮らしの高齢者のもとを訪ねる。 ●高齢者が高齢者を訪問するだけでは、次世代に引き継がれていかない。訪問するときには、子どもたちと一緒にいく。 ●訪問するハードルを下げるため、地域ぐるみでみんなを巻き込んだイベントを開いて、若者と高齢者の顔合わせの場をつくり、徐々に顔合わせの機会を増やす。 </td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> <p><u>街のお店の人たち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の取り組みをサポートしてもらう。 </td> </tr> </table>	個人	●相手への気配り、お互いを思いやる気持ちを持つ。	地域	<ul style="list-style-type: none"> ●話し相手になるために、ひとり暮らしの高齢者のもとを訪ねる。 ●高齢者が高齢者を訪問するだけでは、次世代に引き継がれていかない。訪問するときには、子どもたちと一緒にいく。 ●訪問するハードルを下げるため、地域ぐるみでみんなを巻き込んだイベントを開いて、若者と高齢者の顔合わせの場をつくり、徐々に顔合わせの機会を増やす。 	行政		その他
個人	●相手への気配り、お互いを思いやる気持ちを持つ。								
地域	<ul style="list-style-type: none"> ●話し相手になるために、ひとり暮らしの高齢者のもとを訪ねる。 ●高齢者が高齢者を訪問するだけでは、次世代に引き継がれていかない。訪問するときには、子どもたちと一緒にいく。 ●訪問するハードルを下げるため、地域ぐるみでみんなを巻き込んだイベントを開いて、若者と高齢者の顔合わせの場をつくり、徐々に顔合わせの機会を増やす。 								
行政									
その他	<p><u>街のお店の人たち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の取り組みをサポートしてもらう。 								

2 子ども・子育て

■ キーワード

→ 不安

→ リラックス

→ 地域で子育て

→ お祭り

課題1		<p>【家での親の居場所づくり】 子育て中の親は、家の中でも休まらない</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 親も子ども、自分の家が一番安心できる場所だという人は多いだろう。 ☞ しかし、育児には時間的区切りがなく、特に小さい子がいる家庭では、休む時間が少なくなりがちだ。 ☞ 育児に疲れる人に、一番安心できる場所である自分の家で、リラックスし、休息する時間をつくってあげたい。
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● いつも育児の中心になっている人に任せっきりせず、積極的に関わり、協力していく。 ● 父母に任せるのではなく、祖父母も協力して育児に関わる。 ● 相手が気持ちよく行動できるように上手に頼る。「ありがとう」を意識する。
	地域	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 育休を活用させる。
	その他	

課題2		<p>【地域で子育て】 地域で子育てを応援する雰囲気が醸成されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 幼い子がいる家庭の人たちが、安心して暮らせる安全な地域にしたい。 ☞ 子育てには不安がつきもの。外を子連れで散歩するだけでも様々な不安がある。 ☞ 地域でサポートして、子育てをしている家庭の不安を取り除きたい。 ☞ 親が祖父母や近所の先輩ママ・パパにサポートをお願いでき、また、周囲もそれを受け入れられる環境をつくりたい。
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを見たら邪険にしない。あたたかい目で見守る。 ● 手助けが必要そうときは、勇気をだして助ける。 (子どもが転んでしまったり、何かアクシデントがあったとき)
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通ルール等、地域全体で見守る。 ● 子どもたちと親たちが安心して暮らせるよう、地区内のパトロールを日頃から行う。 ● 子どもと高齢者など、これまで関わりのなかった人たちの接点を作る。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 危険な道路・歩道を整備する(ガードレール等)。
	その他	

課題3

【親子で出かける居場所づくり】
幼い子どもがいる親が、安心して出かけられる場所が少ない
親子がリラックスできる居場所が少ない

- ☞ いつも子育てが生活の中心になっている人は、特に子どもが幼いと、大人と話をする機会が欲しい。
- ☞ 出かけた先で、親が自分の子から目を話せる環境があまりない。
- ☞ 親子でも、子どもだけ・親だけでも安心して出かけられる居場所をつくりたい。
- ☞ その“居場所”で、子ども同士・親同士の交流が生まれると良い。

改善 提案	個人	● 親は子どもを見てもらっている間、その場所で他の人と交流をする。
	地域	<p><u>全体的なこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心して子どもを預けられる場所を増やす。 <p><u>場所・会場に関すること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園・あいあいプラザ等の既存の集まりやすい場所を活用する。 ● 子ども会・学童をベースに、子ども同士、親同士の会を作る。 <p><u>高齢者と子どもの相互見守り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が子どもを見守るために集まる居場所をつくる。 <p><u>地域行事活用に関すること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域で行われていた様々な伝統行事を再興したり活用するなどして、人と人との交流の場を作る。
	行政	<p><u>場所・会場に関すること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 円卓会議のように、安全に子どもを見守り、親同士が交流できる場を用意する。 ● ふれあいの居場所補助事業などを拡大し、集会所の整備を助成する。 <p><u>高齢者と子どもの相互見守り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者施設と併設で子どもの面倒をみる施設をつくり、高齢者と子どもがふれあい、見守りあえる環境を整備する。 <p><u>地域行事活用に関すること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 富岡市における歴史的な伝統行事をもっと紹介し、実施にあたって指導・助言する。(文化財保護課)
	その他	

【補強意見】

伝統行事・お祭りを活用する

- 地域の伝統行事(どんど焼きほか)を再興する。
- お祭りに出てきてもらい、親子共に仲良くする。

3 障がい者とその家族

■ キーワード

- わからない・知らない
- 知るには「体験」
- かるい気持ちでゆるく

課題1		<p>【知る・知らせる】 私たちは「障がい」についてよく知らない</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 私たちは、障がいのある人・その家族の現状を把握できていない。 ⇒ 障がいのある人・その家族と関わったり、サポートするためには、まず「状況を知ること」が大切だ。 ⇒ 「知る」ためには、勉強し想像し知識を得るだけでなく、「体験してみても自らの経験を得る」ことが何よりも大きい。 <p>”居場所”に関する情報が行き届いていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ “障がいがある人やその家族のための居場所”はあるのだろうが、情報が行き届いていない。
改善提案	個人	<p>知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障がいを身近なものとして捉える。 ● 相手の立場になって行動する。 ● ドラマ(サイレントなど)を観て、障がい者について理解を深める。 ● 手話教室に通ってみる。 ● ブラインド歩行、車いす等の体験会に参加する。 ● 施設へ行ってみる。 ● 障がいについて身に着けた情報から何が出来るか考える。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居場所を把握する。 ● SNS を駆使する。
	地域	<p>知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ふれあいの居場所」活動の一環で手話教室を開く。 ● 障がいに関する講演を開催する。 ● 近所にいる障がいを持つ人を把握して助ける。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SNS を駆使する。 ● 地域の広報にチラシを入れる。訪問する。

	行政	<p>知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設における障がい者にとっての「壁」を検証し、結果を地域へフィードバックする。 ● 障がいに関する講演に、パラ競技のメダリストを招く。 ● 小さな声でも真剣に向き合う。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SNS を駆使する(市の LINE、インスタ) ● 施設やかかりつけの病院で、居場所があることを職員や医師から伝える。
	その他	

課題2		<p>【壁をなくす】 障がいに関する「壁」がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 「障がい」という言葉を見ると、重く捉えがちだ。 だからこそ「かるい気持ちでゆるく集まれる」場所づくりが必要。 ⇒ 共感を持ち、共に過ごすことで“自分ごと”にする。 そのうえで助けて欲しいことがあるならサポートする。
改善 提案	個人	<p>身体的なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害物を除去する。 <p>精神的なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● より理解を深める。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 壁を感じずに交流できる場、一緒に過ごす時間をつくる。 ● 飲食をしながら相談できるカフェを設営する。 ● すべての人が笑顔で対応する。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 「障がい」の壁を感じずにコミュニケーションをはかれる場を設定する。
	その他	

【補強意見】

- 同じ悩みをもった人が集まり、話し合うことができればと思う。
- 助けを求められたら協力したい。

4 若者・单身

■ キーワード

- 「交流」に対して不安がある一方、「交流」がないと救われない
- 单身では、何かあったときに頼れる人がいない

課題1	<p>【交流の減少】 特に若い世代で人との直接の交流が減っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 「人と交流する場所」に対する不安や抵抗があるが、一方で交流がないと救われない場面もある。 ひとり・单身の人は、何もなければ自由で気楽だが、ひとたび病気やケガなどの問題が起こったときに頼れる人がいない。 ⇒ 社会人では異業種と、学生では他校との交流の場があれば、良い出会いが生まれるのではないかと。 <p>若者同士の交流が減っていて、集まれる場所も少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 友だちと会話をしながら勉強をする場所が少ない。 ⇒ 学生はスマホをいじる時間が増えていて直接の交流が減少している。特に帰宅部では顕著。 	
	改善提案	個人
地域		<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集まれる場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 場所を提供したい人をつのる。 ● 聞き取りをしたことを考えたうえで、皆さんの課題を、集まりの場を考えていく。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">他世代からのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者は次の地域の担い手となる。そのために、集える場を地域のみならず考えていく。 ● 单身の人に地域の役員を担ってもらい、外出機会を増やし、出会いにつなげる。
行政		<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集まれる場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設を個人へ貸し出す。個人でも借りやすくする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">他世代からのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政が委嘱する様々な委員・役員等に未婚・单身を積極的に増やしていく。
その他		<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集まれる場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 店の一部を、集まれる場所として貸し出す。

5 全般

課題1		【みんなの交流の場】 <u>生活が見えない、他の人と話をする機会がない</u> <u>世代間交流の機会が少ない</u> ◎ 高齢者や単身者、その他どんな人でも集まれる場所をつくりたい。
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ●自分から人と関わろうとする。 ●外で会ったら、誰とでもあいさつする。 ●他の人に“少しのおせっかい”を試してみる。 ●自分の店を交流の場に！！ ●下の世代と上の世代を意識的につなぐ。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ●必ずみんなが集まる活動を設ける。 ●複数の店が、各々の場があればいろんな人が集まれる。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ●交流の場を提供する。 ●地域の店が地域の交流の場になる事の大切さにスポットをあてる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●交流の場を提供する。

課題2		【“地域活動”】 <u>どんな活動が地域で行われているのか知らない(知られていない)</u> <u>「地域活動への参加」に義務感・やらされ感がある</u>
改善提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が興味を持っている活動を自分で調べる。 ●役割を無理強いしない。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ●趣味やカテゴリーごとにまとめた活動の一覧をつくる。 ●月ごとに行われている活動を、カレンダーとしてまとめて参加しやすくする。 ●地域活動に参加しない人を排斥しない。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な活動の他県を行える場をつくって、その後の活動につなぐ。 ●数が足りないと半強制感が発生するため、役割・役職に定数を設けない。
	その他	